

大分県日田市（7月21日）

【人口】72,387人

【面積】666.19k㎡

【一般会計】363.8億円

◆調査事項 「市民ホール建設事業について」

本市の市民ホール建設の参考とするため、平成19年12月から業務を開始した日田市市民ホール建設事業について視察を行った。

【経過】

昭和38年建築の旧日田市民会館の老朽化により、市民ホールを建設（建て替え）

- ・旧ホールの概況 建築面積：2,177㎡ 延床面積：3,289㎡ 座席数：1,006席（車椅子席4）
敷地面積：6,385㎡

平成12年10月	各委員会等の設置（懇話会、ワーキンググループ、庁内検討委員会）
平成13年11月	「総合文化施設建設計画への提言」答申
平成14年 3月	「日田市総合文化施設建設基本構想・基本計画」策定
平成14年11月	日田市総合文化施設（仮称）設計者選定審査委員会の設置
平成15年 3月	エスキスコンペ公開ヒアリングの実施、最優秀案の決定
平成15年 5月	総合文化施設シンポジウムの開催
平成15年 8月	第1次設計案説明会の開催総合文化施設を考えるシンポジウムの開催
平成15年10月	第2次設計案説明会の開催
平成15年12月	第3次設計案説明会の開催
平成16年 7月	基本設計案説明会の開催
平成16年 8月	基本設計報告会の開催
平成17年 2月	実施設計中間報告会の開催
平成17年 3月	実施設計完了
平成17年 8月	施設本体6工事の発注 ・建築主体工事 ・機械設備工事 ・電気設備工事 ・舞台機構設備工事 ・舞台照明設備工事 ・舞台音響設備工事
平成17年10月	工事着工前イベントの開催、施設本体建設工事着手
平成19年 8月	施設本体建設工事完了
平成19年12月	開館並びに開館記念事業の実施

※コンペは、一定の条件のもとで設計案を争う方法であり、エスキスコンペとは、コンペと比較して簡便な方法として、簡単な図面や図書で提案の質を争うもの。

【概要】

(1) 工事期間：平成 17 年 8 月～平成 19 年 8 月

(2) 規模・構造等

建築面積：5,578㎡ 延床面積：10,009㎡ 大ホール1003席 小ホール351席

敷地面積：9,479㎡ ※市民ホール東エントランスに隣接して中央公園(芝生広場)があり、一体として広い空間を演出している。

建物構造：鉄骨鉄筋コンクリート造 地上3階、地下1階

駐車場：119台：第1駐車場50台、第2駐車場69台

(その他 JR線路をはさんだ場所に市営駅北駐車場 150 台あり)

(3) 建設費

総事業費：約 60 億円 (うち本体工事費 46 億円)

(財源) 一般財源 2.5 億円、基金 16.6 億円、起債 36.9 億円 (起債は合併特例債を活用)
補助金 4 億円

(4) 維持管理費

約 1 億 1,700 万円 (H20 決算額：職員給与除く ※直営)

(5) 各フロアの概要

地下：

1階：大ホール 小ホール 事務室 スタジオ1～4 創作室 ギャラリー

2階：大ホール 小ホール 市民活動支援室 和室 楽屋 喫茶

3階：大ホール

【特色】

◇人にやさしい施設

- ・エレベーターやスロープの設置によるバリアフリー化
- ・多目的トイレを各階に設置
- ・ホールに難聴者補聴システム等を導入

◇環境への配慮

- ・太陽光発電施設の設置 (年間 5 万 k w)
- ・館内の空調負荷を抑えるため、屋上緑化を採用
- ・空調等に地下水の有効利用
- ・施設内部への自然光の積極的な取込み

◇日田らしさの醸成

- ・木材を施設の各所に使用
- ・外壁、内壁に漆喰仕上げを多用

◇その他

- ・日常的に利用されるギャラリー・スタジオ・創作室を1階フロアに配置
- ・市民の創造活動を支援するため、スタジオの1つは大ホールの舞台と同等の広い面積を確保
- ・チャイルドルームの設置
- ・施設内を東西に通り返けできる吹き抜けのガレリア (スタジオ等の練習風景を垣間見ることのできる) を配置
- ・小ホールは、1階の座席を全て収納することにより平土間として展示会場やイベント会場として使用可
- ・打合わせや休憩等に活用できる喫茶コーナーを2階に設置

【施設構成】

◇大ホール

質の高い音楽や演劇等の演目にも対応できる舞台の広さと設備を備えた多目的ホール。客席は、1階と2階合わせると1,003席（1階車いす席5席を含む）。

◇小ホール

1階の客席を全て収納することでホール全体が平らな床となり展示会等にも使える。客席は1階が主で、2階のバルコニー席を合わせると最大351席（1階車いす席2席を含む）。

◇ギャラリー

様々なジャンルの美術作品等を発表・鑑賞できる展示スペース。また、収納式の可動間仕切りにより部屋を区切ることで多様な展示ができる。

◇スタジオ

音楽、演劇、ダンス等の練習に使用できる大小4つの部屋がある。スタジオ1は主舞台と同等の広さで稽古、リハーサルに使用可。

◇創作室

美術や工芸等の創作活動に利用する部屋です。部屋の外には、屋外の作業に適した製作テラスがある。

◇和室

華道や茶道等、和物の練習のほか、会議室としても使用できる。

【委員の感想】

- 専門的なところに特化するのではなく、多機能・多目的に利用できるよう考えられていると感じた。このことが、稼働率の高さにつながっているのだと思う。また、特産の日田杉が多用され、暖かみを感じさせた。本市においても市の木である松を工夫して使えばよいのだがと感じた。
- 大ホールのステージと同じ広さの練習場には感心した。
- 管理運営は（舞台監督、舞台技術者の委託を含め）3年間地域振興部文化振興課で実施、その後指定管理等に移す予定。本市においてもスタートから専門分野に委託すべき。
- 大ホールの席数は1003席で日田市の集客数を満足している。大規模の演劇などは福岡市を利用している。また、市民の文化活動の拠点として、ギャラリー・スタジオ、創作室など使いやすさを徹底的に追求されていると思った。
- 公募型エスキコンペの導入は参考となった。
- 管理運営組織に施設運営アドバイザー、運営に舞台監督、技術者に委託等、運営組織の重要性が理解できた。
- 市民ホールは市民にとって必要な施設であるが、建設に多額の財源が必要であることに加え、完成後の管理運営費も財政上大きな負担となる。本市においても、これから市民ホール等の箱物の建設が続くが、それに伴い管理運営費（維持管理費）も増加すると見込まれ、歳入増等の取り組みをしなければならない。